

2026年3月期 決算説明資料

ジオマテック株式会社
create coating solutions

2026年 5月15日

2026年3月期決算概要

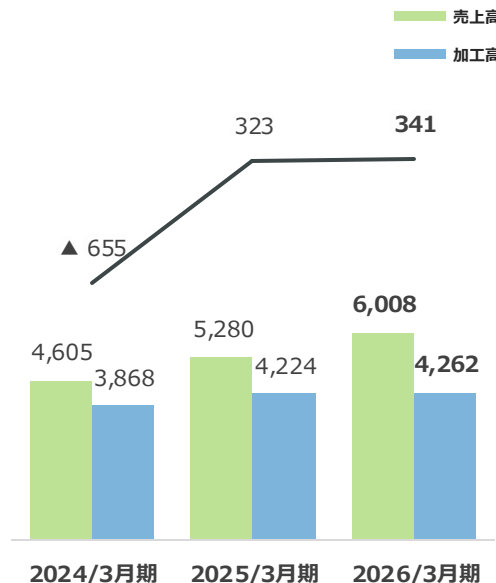
損益計算書

売上高	6,008	百万円
営業利益	341	百万円
経常利益	429	百万円
当期純利益	638	百万円

売上高・加工高・営業利益

単位：百万円	2026年 3月期	2025年 3月期	前期比	計画比
売上高	6,008	5,280	114%	118%
売上総利益	1,462	1,537	95%	104%
販売管理費	1,121	1,213	92%	102%
営業利益	341	323	105%	114%
経常利益	429	366	117%	123%
当期純利益	638	360	177%	194%
EBITDA	520	468	111%	102%
1株当たり 当期純利益（円）	80.76	45.57	177%	194%
研究開発費	223	318	70%	74%
設備投資額	176	723	24%	29%
減価償却費	179	145	123%	85%
加工高	4,262	4,224	101%	104%

※加工高とは、売上高から基材材料費と外注加工費を差し引いた、成膜分の売上（付加価値収入）のことです。
尚、加工高は、当社の管理数値として使用しているもので会計数字とは必ずしも一致しません。



繰延税金資産の計上について

今後の業績見通し等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、回収が見込まれる部分について繰延税金資産を計上することといたしました。これにより法人税等調整額△186 百万円（△は利益）を計上いたしました。

2026年3月期決算概要

貸借対照表

総資産	16,460 百万円
負債合計	6,416 百万円
純資産合計	10,043 百万円

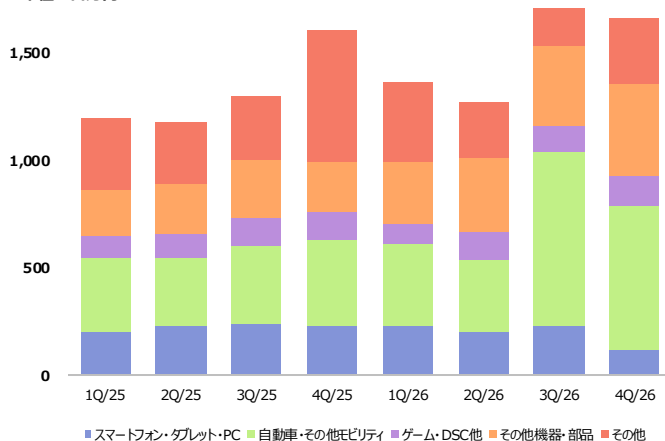
単位：百万円	2026年 3月期	2025年 3月期	増減
流動資産	10,539	10,744	▲ 205
現金・預金・有価証券	4,029	3,029	1,000
受取手形・売掛金	3,997	4,551	▲ 554
電子記録債権	284	613	▲ 329
固定資産	5,920	5,614	306
有形固定資産	2,012	1,968	44
負債	6,416	7,253	▲ 837
支払手形・買掛金	3,770	4,252	▲ 482
借入金等	1,737	2,030	▲ 293
純資産	10,043	9,104	939
総資産	16,460	16,358	102
自己資本比率	61.0%	55.7%	5.3pt
1株当たり純資産（円）	1,269.69	1,150.97	118.72

キャッシュフロー概要

単位：百万円	2026年 3月期	2025年 3月期	増減
営業活動によるCF	1,256	478	778
税引前当期純利益	487	379	108
減価償却費	179	145	34
その他	590	▲ 46	636
投資活動によるCF	31	▲ 1,012	1,043
固定資産の取得	▲ 881	▲ 368	▲ 513
投資不動産の取得	▲ 2	▲ 346	344
その他	914	▲ 298	1,212
財務活動によるCF	▲ 294	▲ 132	▲ 162
借入金の借入・返済	▲ 292	▲ 130	▲ 162
その他	▲ 2	▲ 2	0
現金等に係る換算差額	6	4	2
現金等の期末残高	4,029	3,029	1,000
フリーキャッシュフロー	1,288	▲ 534	1,822

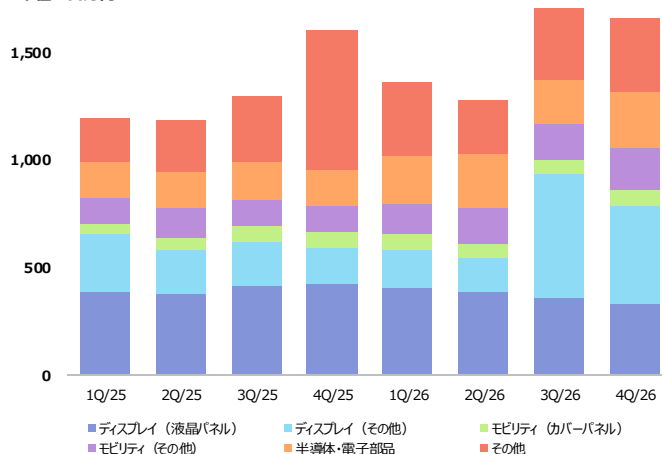
最終製品別売上高推移

単位：百万円



品目別売上高推移

単位：百万円



◆ディスプレイ

- 車載向け液晶ディスプレイパネル用帯電防止膜の受注は低調に推移
- カバーパネル用反射防止・防汚膜の受注は第4四半期にかけて大きく増加

◆半導体・電子部品

- 半導体テストウエハー向けを中心に受注が安定的に推移
- 監視カメラや産業用プリンターヘッド、次世代エネルギー向けなど、用途拡大が期待される分野の受注は引き続き堅調に推移

◆その他

- g.moth®やg.slip®などのナノ構造体製品の売上や各種テスト基板向けの受注は安定的に推移
- 成膜加工関連部材の売上は大幅に増加
- 当期の装置販売ソリューション関連取引実績はなし

2027年3月期業績見通しについて

2027年3月期 業績見通し

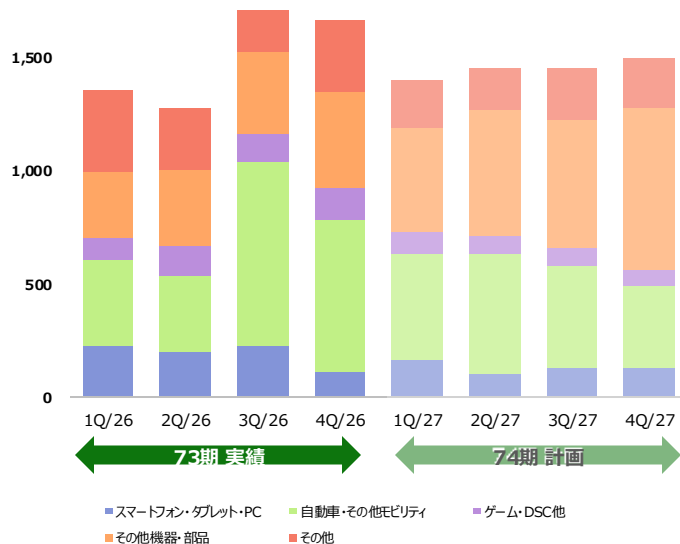
単位：百万円	2027.3					2026.3
	通期計画	H 1 計画	H 2 計画	前期比		実績
				増減額	増減率	
売上高	5,800	2,850	2,950	▲ 208	▲ 3.5%	6,008
営業利益	350	180	170	9	2.6%	341
営業利益率	6.0%	6.3%	5.8%	-	-	5.7%
経常利益	385	198	187	▲ 44	▲ 10.3%	429
当期純利益	355	183	172	▲ 283	▲ 44.4%	638

加工高	4,650	2,150	2,500	388	9.1%	4,262
研究開発費	149	-	-	▲ 73	▲ 32.7%	223
設備投資額	700	-	-	524	297.7%	176
減価償却費	300	-	-	121	67.6%	179

売上高推移（74期計画）

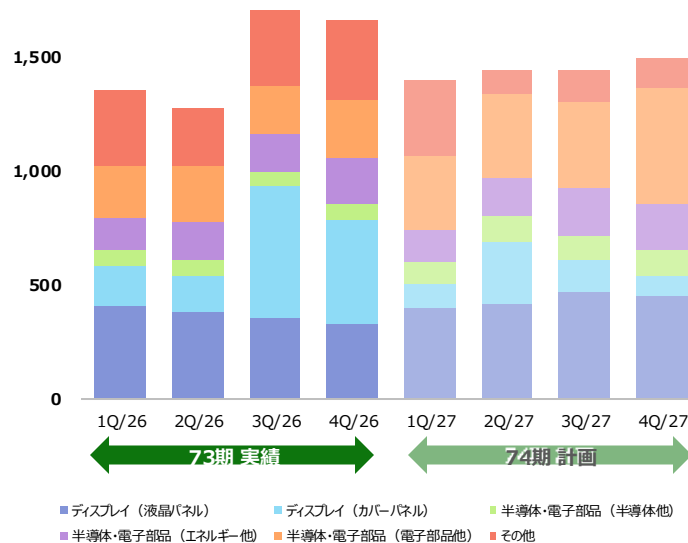
最終製品別売上高推移

単位：百万円



品目別売上高推移

単位：百万円



経営環境及び対処すべき課題

経営環境

当事業年度におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資需要の底堅さに加え、インバウンド需要の回復が景気を下支えし緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、地政学的リスクの長期化に加え、年度後半における中東情勢の急速な緊迫化による資源価格上昇や物流停滞の懸念、さらには米国通商政策の不確実性や物価上昇などから、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

こうした環境の中、当社を取り巻く事業環境は、自動車市場での中国競争による減産影響から回復が見られ、ディスプレイ関連製品は堅調に推移しました。半導体市場も生成AI投資やデータセンター需要を背景に好調を維持しました。一方、電子部品では産業向けは堅調ながら、民生向け需要は弱含みとなりました。

対処すべき課題

このような経営環境の下、当社はこれまでマーケットインとプロダクトアウトの戦略に基づき、「薄膜技術」を強化し成長を図ってまいりましたが、今後はこの経営志向をさらに発展させ、従来の薄膜技術に加え、顧客ニーズに応じた生産技術の強化と経営資源の最大活用によって顧客の利便性および当社の収益性の向上を目指す「薄膜技術＋生産技術」という当社の強みを活かし企業成長に取り組んでまいります。当社が現在認識している課題と対策は以下の通りです。

1. コア事業の強化

当社の主力製品であるディスプレイなどの薄膜加工製品については、既存設備を有効に活用するとともに、原価低減と価格戦略の見直しを進めることで、収益性および資産効率の改善を図っております。

2. 戦略事業、新規事業の強化

成長が期待される製品・市場に向けて、これまで培ってきた薄膜技術および生産技術を活かし、顧客に対して高い利便性を提供することで事業の拡大と収益性の向上に取り組んでおります。

3. 人的資本の強化

教育制度および評価制度の整備を進め、あるべき姿の実現に向けた人材の確保と組織能力の向上に取り組んでおります。また、社員がいいきと活躍できる職場環境の整備を目指し、企業風土改革にも継続して取り組んでおります。

4. 経営基盤の強化

経営の高度化を実現するため、デジタル基盤の強化を進めております。あわせて、財務基盤の安定と資本効率の向上を図りつつ、成長領域への戦略的投資を推進しております。

・情報提供の目的

当サイトの目的は、当社への理解を深めていただくことを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。掲載されている情報は、インターネット上で簡便にご参照いただくために作成されたものです。当社は細心の注意を払っておりますが、掲載されている情報には不測の誤りがある可能性があります。当サイトのご利用により、被害・損害が発生したとしても、当社は一切責任を負うものでないことをあらかじめご了承ください。

・将来予測に関する考え方

当サイトに掲載されている情報には、当社の計画、予測など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらは、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断および仮定に基づくものであり、既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、当社の業績、事業活動、財務状況は、見通しと大きく異なる場合があります。

・投資判断に対する考え方

投資に関する最終的なご決定は、当サイトの情報に全面的に依存することはお控え頂き、ご自身の判断と責任において行われますようお願いいたします。

・情報内容変更等の可能性

当サイトまたは当サイト上のコンテンツは、予告なく変更、修正、削除、中断することがあります。当社は、サイトに掲載された情報を更新する義務を負うものではなく、その約束をするものではありません。当サイトのいかなる情報についても、常に最新情報に反映されるものでないことをご了承ください。